

第11回 サポートホール高松デビューリサイタル

出演者インタビュー vol.4

3月5日(日) 第2部 高橋 佳那 / ピアノ



～私にとって音楽とは？～

生きている限り

続けるべき“使命”

善通寺市出身で、現在、東京音楽大学大学院音楽研究科修士課程器楽専攻鍵盤楽器研究領域（ピアノ）2年生の高橋佳那（たかはし かな）さんにインタビューしました。

— 今回、「デビューリサイタル」に応募した理由をお聞かせください。

故郷の香川県で、今までお世話になった方々に恩返しができるような演奏をしたい！と、ずっと思っていたからです。

— ピアノを始めようと思ったきっかけを教えてください。

親の影響で、3歳の時に始めました。

— 心を動かされた曲や聴いてみてほしい曲はありますか？

スクリャーピンのピアノソナタ第4番です。おしゃれで綺麗で爽やかで、素晴らしくセンスのいい曲だと思います。ただ聴くのは大好きですが、弾くのはどうも苦手です。

— コロナ禍で演奏活動が制限される中、特に大変だったことはありますか？

生の音を届けたり、逆に聴いたりする機会が減り、音楽家たちが突き詰めた1音1音をダイレクトに感じ取れないことが増え、沢山のもどかしさと苦痛を感じました。

— 最後に一言をお願いします。

私は人前に出るのがとても苦手です。しかし最近やっと、人前で演奏することの喜びを少しずつ感じられるようになってきました。私はまだまだ成長途中なのだと思います。そんな未熟者ながら精一杯頑張らせていただくので、どうかよろしくお願ひいたします。